

『JunCture』第3号をお届けする。本誌はこれまで毎号編集委員長を交代し、そしてそれによって、各号の「カラー」も変えてきている。

本号の特集は「文化の越境と翻訳」である。すでに特集の扉のページ、また事業報告にも記したとおり、私たちの日本近現代文化研究センターにおいては、2011年、「翻訳」・「文化の越境」をテーマに、2回の国際ワークショップ・シンポジウムを開催してきた。本号はまさにその成果の一端を示すものといえよう。

具体的には、2011年1月にドイツ・フライブルクで開催した国際ワークショップ「文化の越境と翻訳」からは、日地谷キルシュネライト・イルメラ氏、坂井セシル氏、日比嘉高氏の3名、2011年12月に中国・上海で上海交通大学外国語学院と共催した国際シンポジウム「文化の越境、メディアの越境——翻訳とトランスメディア」からは、康東元氏、大井田晴彦氏、呉保華氏の3名に、それぞれのご発表内容をもとにご寄稿いただいた。そしてさらに対象を広げるべく、本号のために新たに陳力衛氏と秋庭史典氏にご寄稿いただき、以上8編の論文からなる、質量ともに充実した特集となった。創刊号以来巻頭を美しいグラフィア・レポートで飾っていた四方幸子氏とともに、お忙しい中、玉稿をお寄せいただいた各位に感謝を申し上げたい。

そして、本号にも多数の方から投稿論文をお送りいただいた。投稿者の皆様と、査読委員を匿名かつ無償で引き受けてくださった方々にあらためてお礼を申し上げるとともに、引き続き次号以降へのご支援をお願いする次第である。

最後に、やはり創刊号からずっとお世話になり、この3号もすばらしいものに仕上げてくださった、デザイナーの金武智子さん、編集作業のアシスタントの堀口真利子さん、英語のチェックをしてくださったトーマス・カバラさんにも感謝を申し上げたい。